



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 NECネットエスアイ株式会社

コード番号 1973 URL <http://www.nesic.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役執行役員社長

(氏名) 和田 雅夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員

(氏名) 山本 徳男

TEL 03-6699-7000

四半期報告書提出予定日 平成29年1月30日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	179,314	△7.6	3,456	△47.9	3,594	△46.9	2,132	△46.8
28年3月期第3四半期	194,120	△3.1	6,634	△20.9	6,768	△21.0	4,007	△21.8

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 2,341百万円 (△50.4%) 28年3月期第3四半期 4,717百万円 (△18.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	42.96	—
28年3月期第3四半期	80.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	184,006	93,262	49.7	1,843.92
28年3月期	196,569	94,397	47.2	1,868.25

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 91,528百万円 28年3月期 92,738百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	35.00	—	35.00	70.00
29年3月期	—	36.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	36.00	72.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	260,000	△7.1	10,000	△29.1	10,000	△29.2	6,000	0.1	120.87

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.5「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	49,773,807 株	28年3月期	49,773,807 株
29年3月期3Q	135,629 株	28年3月期	134,825 株
29年3月期3Q	49,638,696 株	28年3月期3Q	49,639,749 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を受けております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、将来の予測であり、確定的な事実に基づかないためにリスクや不確定要因を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により記載の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お願います。実際の業績に影響を与える重要な要因は、当社グループの事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供するシステムやサービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、市場対応能力などです。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定するものではありません。また、業績予想の前提となる仮定等については、添付資料P.4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日、以下、当四半期累計期間）のわが国経済は、企業収益の改善に足踏みが見られるなど、足元で弱さもありましたが、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調が続きました。

このような経済環境下、当社の事業領域であるICT^(※1)市場におきましては、分野ごとに強弱が見られました。

まず企業におきましては、投資効果に対する経営者意識の厳しさが継続いたしました。働き方改革などの企業の経営強化・競争力強化を目指した投資は活発でした。

通信事業者におきましては、ネットワークインフラへの設備投資が引き続き抑制されるなど、厳しさが続いております。

官庁・自治体、公益関連では、平成28年5月にアナログからの移行期限を迎え、消防救急無線システムのデジタル化投資が終了いたしました。安心・安全や放送分野など都市基盤高度化に向けた投資は堅調に推移いたしました。一方で、公共分野（道路など）において入札時期に遅れがあるなど、一部で弱さも見られました。

海外においては、アジア圏を中心として移動体通信をはじめとするインフラ構築の需要が顕在化しております。

こうした市場環境のなか、当社グループでは、当期を中期的な再成長に向けた足場固めの年と位置付け、営業体制の強化や、ソリューションのプロモーション活動を積極的に展開するとともに、社内においては、基幹システムの開発や費用効率化の継続など事業力の強化を進めてまいりました。企業向けには、PBX^(※2)の更新需要を捉えてサービス型事業の加速を図るべくクラウド音声サービス「ネットボイス」を投入、さらにはお客様のIoT^(※3)ソリューション開発における検証・評価を行うIoTラボや、IoTデバイス等のテクニカルサービスを提供する新たな拠点を開設するなど、「EmpoweredOffice^(※4)」やIoT/MVNO^(※5)などの注力事業分野の拡大に向けた施策を展開してまいりました。また、海外においても、平成28年4月に、今後のインフラ投資拡大が期待されるミャンマーへ、技術者の確保・育成による事業基盤の強化や、さらなる事業拡大に向け、現地企業との合弁により海外子会社ICT Star Group Myanmar Co., Ltd. を設立し、前期に本格進出したミャンマー市場への取り組みを強化いたしました。

これらの結果、当四半期累計期間における連結業績は、

売上高	1,793億14百万円	（前年同期比	7.6%減少）
営業利益	34億56百万円	（前年同期比	47.9%減少）
経常利益	35億94百万円	（前年同期比	46.9%減少）
親会社株主に帰属する四半期純利益	21億32百万円	（前年同期比	46.8%減少）

<参考>

受注高	2,021億27百万円	（前年同期比	2.4%増加）
-----	-------------	--------	---------

となりました。

売上高は、1,793億14百万円と前年同期比7.6%の減少となりました。これは、一般企業向け売上が増加した一方で、通信事業者の設備投資抑制の影響によりキャリアネットワーク分野の売上高が大幅に減少したことや、平成28年5月に終了した消防救急無線システムのデジタル化対応プロジェクトの影響によるものです。受注高は、通信事業者の設備投資抑制や消防救急無線システムのデジタル化対応プロジェクトの終了の影響などがありましたが、一般企業向けが堅調に推移したことに加え、大型の太陽光発電所建設プロジェクトを受注したことにより、前年同期比2.4%増加の2,021億27百万円となりました。

収益面では、コスト効率化により企業ネットワーク、キャリアネットワーク分野を中心に原価率が改善しましたが、売上高が大きく減少したことや外形標準課税や基幹システムにおける開発費の増加などにより、営業利益が前年同期比31億77百万円減少の34億56百万円、経常利益が31億74百万円減少の35億94百万円となりました。これに伴い、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、前年同期比18億75百万円減少の21億32百万円となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

<セグメント別売上高>

(単位：百万円)

		企業ネットワ ーク事業	キャリアネッ トワーク事業	社会インフラ 事業	その他	計
売上 高	当第3四半期 連結累計期間	77,404	42,646	54,311	4,951	179,314
	前第3四半期 連結累計期間	76,637	50,484	63,735	3,263	194,120
	増減額	766	△7,837	△9,423	1,688	△14,806
	増減率 (%)	1.0	△15.5	△14.8	51.7	△7.6

<参考：セグメント別受注高>

(単位：百万円)

		企業ネットワ ーク事業	キャリアネッ トワーク事業	社会インフラ 事業	その他	計
受注 高	当第3四半期 連結累計期間	85,354	50,054	62,359	4,359	202,127
	前第3四半期 連結累計期間	77,207	48,927	66,740	4,548	197,423
	増減額	8,146	1,127	△4,381	△188	4,704
	増減率 (%)	10.6	2.3	△6.6	△4.1	2.4

1. 企業ネットワーク事業 (774億4百万円：前年同期比1.0%増) :
働き方改革へのICT投資は引き続き堅調に推移し、オフィス改革ソリューション「EmpoweredOffice」が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期比1.0%増加の774億4百万円となりました。
2. キャリアネットワーク事業 (426億46百万円：前年同期比15.5%減) :
移動体基地局を中心に通信事業者の設備投資が抑制されている影響により、売上高は前年同期比15.5%減少の426億46百万円となりました。
3. 社会インフラ事業 (543億11百万円：前年同期比14.8%減) :
放送・CATV分野の売上が増加した一方で、消防救急無線システムのデジタル化対応が、平成28年5月にアナログからの移行期限を迎え減少し、売上高は前年同期比14.8%減少の543億11百万円となりました。

※1 ICT :

Information and Communication Technology (情報通信技術) の略。

※2 PBX :

Private Branch eXchangeの略。

外線からの発着信の制御や内線同士の通話機能などを持つ構内交換機のこと。

※3 IoT :

Internet of Thingsの略。

コンピュータ、ルーターなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な個体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットなどのネットワークに接続、通信することで、自動認識や自動制御、遠隔計測などを実現する概念のこと。

※4 EmpoweredOffice (エンパワードオフィス) :

当社の提供するオフィス改革ソリューション。当社の強みであるICTとファシリティ施工力を融合し、より知的で創造的なワークスタイルへの業務プロセス改革を実現するとともに、セキュリティ強化や環境対応力といった社会的責任に応える「働き方」と「働く場」の改革を提案するもの。

※5 MVNO :

Mobile Virtual Network Operatorの略。

仮想移動体通信事業者のこと。

<セグメントの概要>

セグメント	主な事業内容
企業ネットワーク事業	◇主に企業等のオフィス向けのICTソリューションに関するサービスインテグレーションの提供 ◇ICTを核にセキュリティや環境等の対応まで含めた総合オフィスソリューションや、これらに関する運用・監視サービスならびにデータセンターやコンタクトセンターを活用したアウトソーシング・サービスの提供
キャリアネットワーク事業	◇主に通信事業者向けのICT基盤（移動体基地局からコアネットワークまで）におけるSIサービス・設置工事から運用・監視等の関連サービスに至るサービスインテグレーションの提供およびキャリアグレードの大規模かつ広域なICT基盤やデータセンターに関するSIサービスならびにこれらに関する運用・監視サービスの提供 ◇ネットワーク機器などの製造開発、販売およびシステムインテグレーションの提供
社会インフラ事業	◇主に官庁・自治体や公益法人（放送事業者、電力事業者など）向けのICTインフラに関するSIサービス・設置工事から運用・監視等の関連サービスに至るサービスインテグレーションの提供 ◇海外子会社における各種サービスの提供
その他	◇情報通信機器等の仕入販売

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間の総資産は、前年度末に比べ125億62百万円減少し、1,840億6百万円となりました。流動資産は、前年度末に比べ115億32百万円減少し、1,561億5百万円となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金が281億10百万円減少し、現金及び預金が127億9百万円、たな卸資産が29億59百万円増加したことなどによるものであります。固定資産は、前年度末に比べ10億30百万円減少し、279億円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間の負債は、前年度末に比べ114億27百万円減少し、907億43百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が89億89百万円、未払法人税等が28億38百万円減少したことなどによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間の純資産は、前年度末に比べ11億35百万円減少し、932億62百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金が13億92百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の通期連結業績予想につきましては、売上高は、前回予想に比べ100億円減少の2,600億円となる見込みです。これは、主に社会インフラ事業において公共分野（道路など）に競争激化や入札遅れの影響があることや、成長分野である放送・CATV分野については堅調に推移するも見込んだ伸びには及ばないことなどによるものです。これに伴い、営業利益、経常利益は、前回予想に比べそれぞれ35億円減少の100億円、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、20億円減少の60億円となる見込みです。

売上高	2,600億円	(前期比	7.1%減少)
営業利益	100億円	(前期比	29.1%減少)
経常利益	100億円	(前期比	29.2%減少)
親会社株主に帰属する当期純利益	60億円	(前期比	0.1%増加)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,889	56,599
受取手形及び売掛金	104,841	76,731
機器及び材料	2,878	2,648
仕掛品	6,311	9,501
その他	9,760	10,675
貸倒引当金	△44	△50
流動資産合計	167,638	156,105
固定資産		
有形固定資産	10,967	10,785
無形固定資産		
のれん	1,944	1,753
その他	3,080	2,945
無形固定資産合計	5,025	4,698
投資その他の資産		
その他	12,979	12,454
貸倒引当金	△41	△37
投資その他の資産合計	12,937	12,416
固定資産合計	28,931	27,900
資産合計	196,569	184,006
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,190	30,200
短期借入金	4,154	4,207
1年内返済予定の長期借入金	163	171
未払法人税等	3,883	1,044
役員賞与引当金	99	19
製品保証引当金	189	125
受注損失引当金	399	339
その他	19,032	19,771
流動負債合計	67,113	55,881
固定負債		
長期借入金	4,185	4,057
退職給付に係る負債	28,960	28,688
その他	1,911	2,116
固定負債合計	35,057	34,861
負債合計	102,171	90,743

NECネットエスアイ(株)(1973) 平成29年3月期 第3四半期決算短信

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,122	13,122
資本剰余金	16,650	16,652
利益剰余金	67,597	66,205
自己株式	△270	△271
株主資本合計	97,100	95,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32	42
為替換算調整勘定	△376	△677
退職給付に係る調整累計額	△4,018	△3,545
その他の包括利益累計額合計	△4,362	△4,179
非支配株主持分	1,659	1,733
純資産合計	94,397	93,262
負債純資産合計	196,569	184,006

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
売上高	194,120	179,314
売上原価	164,326	151,381
売上総利益	29,793	27,932
販売費及び一般管理費	23,159	24,476
営業利益	6,634	3,456
営業外収益		
受取利息	44	31
保険配当金	172	190
その他	291	219
営業外収益合計	509	441
営業外費用		
支払利息	57	65
関係会社事業再構築費用	43	78
その他	273	159
営業外費用合計	374	303
経常利益	6,768	3,594
特別利益		
関係会社株式売却益	40	—
特別利益合計	40	—
特別損失		
関係会社閉鎖費用	—	87
退職給付費用	464	—
関係会社移転費用	118	—
特別損失合計	583	87
税金等調整前四半期純利益	6,225	3,507
法人税等	2,128	1,233
四半期純利益	4,097	2,273
非支配株主に帰属する四半期純利益	89	141
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,007	2,132

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	4,097	2,273
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	11
為替換算調整勘定	△516	△417
退職給付に係る調整額	1,137	473
その他の包括利益合計	619	67
四半期包括利益	4,717	2,341
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,755	2,315
非支配株主に係る四半期包括利益	△38	26

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,225	3,507
減価償却費	2,347	2,164
のれん償却額	239	191
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△195	△70
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	438	534
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△102	△80
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△78	△63
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	17	△55
受取利息及び受取配当金	△57	△40
支払利息	57	65
売上債権の増減額 (△は増加)	21,344	26,870
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,085	△3,004
仕入債務の増減額 (△は減少)	△14,460	△8,749
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,543	△861
その他	△2,108	1,990
小計	8,040	22,396
利息及び配当金の受取額	57	40
利息の支払額	△51	△62
法人税等の支払額	△5,300	△4,060
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,746	18,314
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,943	△1,340
無形固定資産の取得による支出	△532	△550
投資有価証券の取得による支出	△7	△7
貸付けによる支出	△4	△1
貸付金の回収による収入	5	4
関係会社株式の売却による収入	151	—
その他	△49	△120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,380	△2,017
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,070	551
長期借入金の返済による支出	△120	△120
配当金の支払額	△3,321	△3,514
非支配株主への配当金の支払額	△18	△14
その他	△367	△383
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,757	△3,482
現金及び現金同等物に係る換算差額	△310	△104
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,701	12,709
現金及び現金同等物の期首残高	38,951	43,889
現金及び現金同等物の四半期末残高	37,250	56,599

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	企業ネットワ ーク事業	キャリアネッ トワーク事業	社会インフラ 事業	その他 ^{注1}	調整額 ^{注2}	四半期連結 損益計算書 計上額 ^{注3}
売上高						
外部顧客への売上高	76,637	50,484	63,735	3,263	—	194,120
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	76,637	50,484	63,735	3,263	—	194,120
セグメント利益	5,405	1,955	4,974	330	△6,032	6,634

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報通信機器等の仕入販売を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△6,032百万円は、主に管理部門に係る人件費および経費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	企業ネットワ ーク事業	キャリアネッ トワーク事業	社会インフラ 事業	その他 ^{注1}	調整額 ^{注2}	四半期連結 損益計算書 計上額 ^{注3}
売上高						
外部顧客への売上高	77,404	42,646	54,311	4,951	—	179,314
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—
計	77,404	42,646	54,311	4,951	—	179,314
セグメント利益	5,416	1,663	2,793	178	△6,596	3,456

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報通信機器等の仕入販売を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△6,596百万円は、主に管理部門に係る人件費および経費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。